



ひとりだち

令和7年度
下羽栗小学校
学校だより
R7. 4. 22

しあわせをつくる学校に

先日、羽島郡の教職員の研修会で、「小中学校における発達障害の理解と支援」と題した講話を聴く機会に恵まれました。講師は、大湫病院に勤務される児童精神科医の関正樹先生。書籍やNHKの番組で関先生のお名前をご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

講演の終盤で関先生は「大人になった時に自分を大切に思う気持ちを持ち続け、しあわせに暮らしている子どもは」として、5つお話されました。

- ① 自分が「できること」を知っており、自分のできることは自分でする
- ② 苦手なことは「SOS」を出すと助けてもらえることを知っている
- ③ アドバイスを受けることがそれほど嫌いじゃない
- ④ 自分の好きなものを好きなまま持っている（＝仕事ではない）
- ⑤ 意外と学力としあわせは相関しない

そのための支援の仕方を非常に納得して聴きました。なぜなら、これまでの私の教職経験の中で、なんとなくわかってきたことを、児童精神科医としての専門的な知見から言語化して示してくださったからです。例えば①については、『課題はその子に「できる」課題ですか。大人が「してほしい」課題、「しなきゃ」と思っている課題ではないですか』。②については、『子どものSOSを無視しないこと、「教えて」を無視しないこと』。③については、『アドバイスを大人は感情的に伝えないこと』。④については、『余暇活動が充実していることが大切であり、安易に「好きを仕事に」「得意を伸ばす」と言っていないですか』。⑤については、『学習に触れるだけで終わったり、習熟につながらなかったりすることもあります。が、「学校が好き」だったり、「学級が好き」だったりした子どもの方が大人になってからしあわせに過ごしているように思います』。

一緒に研修を受けた本校の職員も、「大変学びのある内容だった」「普通であることの定義を問い直したいと思った」「自分も大人の都合で動いていなかったか考えたい」「子どものしあわせを考えた将来につながる支援をしたい」などと感想をもちました。

『ウェルビーイング』という言葉があります。「身体的・精神的・社会的によい状態であることを言い、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む」「多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられるよい状態にあること」と国の教育振興基本計画には示されています。

令和7年度の下羽栗小学校の学校経営目標は「しあわせをつくる学校」です。「今日が楽しい」「明日も学校が楽しみ」という子どもの声がたくさん聞けるよう、一人一人の子どもが「こんな自分になりたい」と願いをもち、「自分は成長した」と思う経験を重ねていけるよう、楽しくしあわせな学校をめざしたいと思います。

「しあわせをつくる学校」や「子どもたちのしあわせ」について、職員、保護者、地域の皆様、そして子どもたちが意見交換できたらうれしく思います。

今後ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※学校の様子をHPでも紹介していきます。

「下羽栗小学校」で検索してご覧ください。

行事予定5月

1日(木) 眼科検診	13日(火) 読み聞かせ 検尿①
2日(金) 小中合同引き渡し訓練	14日(水) 運動会係会
3日(土) 憲法記念日	16日(金) 心電図(1,4年)
4日(日) みどりの日	20日(火) 運動会全校練習 鼓笛
5日(月) こどもの日	21日(水) 運動会係会
6日(火) 振替休日	23日(金) ふれあい体験、運動会準備(5,6年)
7日(水) 1年生通常日課開始 結団式 運動会係会	24日(土) 運動会(11:45下校予定)
8日(木) 内科検診①(くりの実,1,3,5年) 生活リズムカード取組(～14日)	26日(月) 振替休業日
9日(金) 内科検診②(2,4,6年)	27日(火) 鼓笛 検尿②
	28日(水) クラブ